

令和3年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果の留意点に対する法人の取組状況

留意点	留意内容	令和4年度取組状況及び今後の取組予定
1 社会人向けの学びの機会の充実について	企業や社会を取り巻く環境の変化のスピードが上がり、就労年数も長くなる中、多くの社会人にとってキャリア中期での学び直しは大きな意義がある。今後も社会人向けの学びの機会のさらなる充実を検討されたい。	令和4年度は、新たに、みなどみらいサテライトキャンパスにて、社会人を主な対象として、「イノベーション人材育成」、「スタートアップ支援」を目的とする授業公開・公開講座「みなどみらいサテライトキャンパス特別講座」を開始した(延べ社会人数61名/受講者数103名 令和4年12月末現在)。令和5年度からは、第4期中期計画に基づいて、本学の強みを活かし、社会の変化に対応できる実践的・専門的な知識や能力の修得を目的とする教育プログラムの充実を図るとともに、オンラインを活用した授業の実施など、現役社会人世代にも受講しやすい環境を整備し、社会人向けの学びの機会提供を推進する。
2 大学の魅力向上について	進学ブランド調査の知名度が、令和3年度の目標値を達成できていないことの要因を分析し、大学の魅力向上に一層努力されたい。	進学ブランド調査の知名度を向上させるため、高校生や高校関係者に対して直接的なアプローチを行うとともにYouTube広告等を実施したほか、本学志願を射程圏内とする学力・偏差値帯の受験生をターゲットの中心として情報発信を行った。結果として、受験生全体に対する認知度を示す進学ブランド調査の知名度については目標を達成することができなかったものの、しっかりと学力を有する学生の確保に寄与したと考える。また、魅力向上の取組として、社会的関心の高い研究成果や、社会課題に直結した取組などを記者発表や記者会見などで発信すると同時に、THE世界大学ランキング2023における、国内11位、公立大学で4年連続トップといった優れた世界的評価についても積極的にPRした。今後については、こうした実績を高校生や高校関係者にも広くアピールしていくとともに、第4期中期計画では、ご指摘の趣旨を踏まえながら、広報戦略に基づき学内の取組や成果をより一層着実かつ適切に情報発信することで、更なる魅力向上を図っていく。
3 さらに充実した情報発信について	18歳人口の減少が進む中、受験生は志望大学を知名度や偏差値だけで選ぶ時代ではなくなっている。入学したらどんなことができるのか、イメージを持ちやすくするためにも動画やSNSも含め多様でさらに充実した情報発信を検討されたい。	本学に関心を持つ受験生が大学生活をイメージできるよう、受験生向けの情報発信として、Webマガジン「ヨコ知り！」において、在学生・卒業生による「部活動座談会」「卒業生座談会」「入試対策座談会」などの動画コンテンツの充実を図り、本学への志願につながる取組を進めた。また、広報課では、Twitter、Facebook、Instagram、YouTubeなどのアカウントで多くのフォロワーを獲得しており、受験生をはじめ様々なステークホルダーであるフォロワーに向けて、年間200件以上の投稿数を目標に、充実した情報発信に努めている。さらに、大学Webサイトでの情報発信強化のため、令和4年度はWeb記事発信数を倍増するとともに、受験生ポータルサイトの構築を行った。今後も動画やSNS、Webサイトなど様々な媒体を有効活用し、充実した情報発信に取り組んでいく。 (参考:フォロワー数) Twitter 約6,000人 Facebook 約3,000人 Instagram 約5,000人 YouTube 約3,000人
4 諸経費の見直しについて	今回の黒字決算は、新型コロナウイルス感染症絡みの補助金という特殊事情が多分に寄与したものであり、法人においては諸経費の見直し、節減に一層に努めていただきたい。	諸経費の見直し及び節減については、これまでも継続して取り組んでいるが、令和5年度から始まる第4期中期計画期間においては、より一層厳しい経営状況が想定されるため、自律的かつ持続可能な法人経営の実現を目指し、諸経費の見直しに留まらず、現行の諸体制の見直しを視野に入れた経営改革の方向性の検討に着手した。理事長をトップとした学内理事による全学的な検討会を複数回開催し、目的積立金の有効活用について検討を行ったほか、今後プロジェクト形式で実施する経営改革の具体的な取組項目について整理した。また、附属2病院における病床再編等による増収策の検討を行った。令和5年度以降、外部資金の更なる獲得による自主財源の確保や、複数あるキャンパスのあり方の見直しなどの経費削減の取組に向けて、中長期的な視点で改革を進めていく。